

乳児健診対象者の協力を得て実施 ～山梨県市川三郷町～

(問い合わせ先) いきいき健康課 電話番号：0556-32-2114

1. 事業の特徴

中学校3年生の授業の一環として、町における乳児健診の機会を活用し、乳児とのふれあいを体験

2. 実施場所

三珠町健康管理センター

3. 実施日（16年度）

	第 1 回 目	第 2 回 目
事前学習	11月2日：2時～3時(6校時) 11月5日：2時～3時(6校時) 11月9日：2時～3時(6校時)	11月30日：2時～3時(6校時) 12月3日：2時～3時(6校時) 12月8日：2時～3時(6校時)
交流事業	11月16日：1時～4時	12月14日：1時～4時
まとめ学習	11月19日：11時～12時 (4校時)	12月17日：11時～12時 (4校時)

4. 参加者数

- ・中学校3年生 46人(実人数)
- ・乳児(0歳児) 延べ22人

5. 乳児の募集

町の担当課において、交流の1ヶ月前から、乳児健診対象者を中心に協力依頼をした。(個別通知でお知らせをして、電話で参加の有無を確認した。)

6. 事業当日のスタッフ体制

(事前学習) 保健師2名、教員2名

(交流事業) 保健師5名 教員3名 保健事務1名 教育委員会1名
補助員1名

(まとめ学習) 担任

7. 関係機関との連携及びそれぞれの役割

町：乳児の募集と保護者への理解、事前学習、交流時の安全確保のための具体事例の提示、専門的資料の提供、助言

中学校：授業の一環として位置づけ、事前学習

教育事務所・教育委員会：事業実施日に健康管理センターにおいて見守り、助言等を行い事故防止・安全対策等に協力

保健所：事業への協力

8. 事業内容

事業の流れ	具体的内容
事前学習	<p>3日間にわたって、講義等を実施（①は教師、②③は保健師）</p> <p>①受精・妊娠・出産について ②子どもの成長について ③妊婦シュミレーター装着や赤ちゃん人形を使ってのプレ実習</p>  
交流事業	<p>実際の乳児健康診査に、1組の乳児と保護者に1～2名の生徒が担当し、赤ちゃんに触れたり、母親や父親から育児体験を聞いたりしながら、生命の尊さを理解する。また、乳児の成長・発達の実際に触れ理解する。</p> <p>①対面・自己紹介（10分程度） ※保健師が親子と生徒の対面時の導入援助を実施</p> <p>②問診・計測・診察に付き添い、乳児の観察をするとともに、実際に乳児にふれてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事質問表に母親が記入している間、乳児をあやす ・問診・計測中は着脱の手伝い計測の補助、発達チェックを観察したり、抱き方、扱い方を実習する。 ・診察につき添い、発達チェックなど診察の様子を見学する。 ・おむつ交換や抱っこ、ミルク飲ませ体験など <p>③母親や父親から話を聞く。 ※②と③で80分程度</p>  

保護者への感謝の手紙	後日、交流のお礼や感想を手紙に書き、保護者に送った。
まとめ学習	事後アンケート調査と感想発表 感想を発表しあい他の生徒の学んだことを共有して学習をさらに深めた。

9. 事故防止・安全対策

- ・事前学習の際に、月齢にあった抱き方や扱い方の習得、必ず座って抱く、高い高いはしない、手洗いをする、爪を短く切る、汚れても良い動きやすい清潔な体育着にエプロン着用などの留意点を周知
- ・プレ実習から実際の交流まで時間を置かない。（3日程度）
- ・交流中は、スタッフが十分関わられるよう、関係機関部署から多数協力を得た。全体を掌握できるように、学習内容を熟知している保健師がフリーの立場で統括した。それぞれの部署（待合・遊具室、問診、計測、診察室）にスタッフが必ず2～3名つくようにした。
- ・生徒自らが積極的に関わることで、保護者に安心感を与えるよう配慮した。

10. 事業の効果

- ・児童からは、命の大切さや子育ての大変さの実感が得られ、自分もそうして育てられたという思い、自分が親になったときのことなどが感じられている。
- ・保護者からも、家族以外の地域の方との交流ができてよいとの意見あり。
- ・保護者むけに、後日「命の大切さを」をどう子ども達に伝えるかをテーマに、子育て学習会を開催した。この際に、ふれあい体験学習の様子を紹介し、親と子の両方の立場から理解を深めた。

11. 今後の課題

- ・1回の事業で目的を達成し、効果を期待することは難しいので、継続的な実施が必要。
- ・事業実施に当たっては、地域、学校、家庭、行政が連携をとることが必要。
- ・児童の発達段階に応じた交流事業が必要。